

平成27年度

25th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入選作品

- 主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(栗原市、登米市、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
- 後援 宮城県、(一社)栗原市観光物産協会、(一社)登米市観光物産協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、
毎日新聞仙台支局
- 協賛 富士フィルムイメージングシステムズ(株)、宮城県写真商業組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮城県知事賞)	編隊飛行	日野 諗	山形県山辺町
優秀賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	日の出の情景	伊藤 利喜雄	岩手県一関市
金賞 (栗原市長賞)	明けの乱舞	渡邊 興次	東松島市赤井
金賞 (登米市長賞)	夢幻の華	小野寺 亨	栗原市瀬峰
銀賞 (栗原市観光物産協会会長賞)	朝 露	刈 部 博	仙台市青葉区
銀賞 (登米市観光物産協会会長賞)	朝日に連翔	加藤 久雄	登米市迫町
銀賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	Brand New Morning	大森 俊裕	仙台市泉区
銅賞 (河北新報社賞)	越 冬	安 納 正	栃木県宇都宮市
銅賞 (読売新聞東北総局長賞)	時 に て	岩 崎 孝	仙台市太白区
銅賞 (朝日新聞仙台総局長賞)	霧海に舞う	狩 野 博美	登米市迫町
銅賞 (毎日新聞仙台支局長賞)	望月の空に翔る	佐 藤 崇	仙台市泉区
入 選	厳冬の華達	石 原 三雄	角田市角田
入 選	夜明けの漁場	庄 子 源六	仙台市若林区
入 選	ボクのだよ……?	鈴 木 晁明	大崎市三本木
入 選	満月の雁行	遠 藤 一治	仙台市泉区
入 選	厳 寒	佐々木 幹男	登米市迫町
入 選	冬の旅人	佐 藤 浩章	福島県南相馬市
入 選	朝日を浴びて	高 田 毅	福島県南相馬市
入 選	舞 踏	佐 藤 寿好	登米市東和町
入 選	蓮沼炎上	日 野 俊文	宮城郡七ヶ浜町

総 評

今回はラムサール条約登録30周年、フォトコンテスト第25回記念であり、1年以上前に撮影された作品も応募され見応えがありました。応募者は宮城県の方が多く、1年を通した伊豆沼・内沼の様々な表情がとらえられ、沼の迫力ある鳥の生態や自然風景、生活と密着した場面など多彩な作品ばかりでした。その中から、被写体をよく観察し、チャンスをねらい、プリントのクオリティーまでを重視して選定させていただきました。

今年もたくさんの渡り鳥が伊豆沼・内沼にやってきた様です。宮城県の県鳥であるガンの仲間のマガンが朝日とともに一斉に飛び立つ光景は年々有名になり、宮城県の風物詩ともなりました。多くの観察者が訪れるようになりましたが、その為にマガンがやや警戒をして飛行経路が変わったという懸念もある様です。環境保全が第一であり、野生生物を暖かく見守ることを心がけ、いつまでもこの光景を残そうという思いを共有しながら撮影していただければ嬉しいです。

フォトコンテスト審査員 井 村 淳 (いむら じゅん)



1971年生まれ。横浜市在住。
日本写真芸術専門学校卒業。
竹内敏信氏の助手を経てフリーになる。
サバンナの動物を中心に世界の野生動物や日本の自然など「野生」を求めて活動。
(社)日本写真家協会会員。チーター保護基金ジャパン名誉会員。キヤノンEOS学園講師など。
著書『大地の鼓動』『あざらしたまご』他。

ホームページ
(J's WORLD Nature Photographer Jun Imura's website)

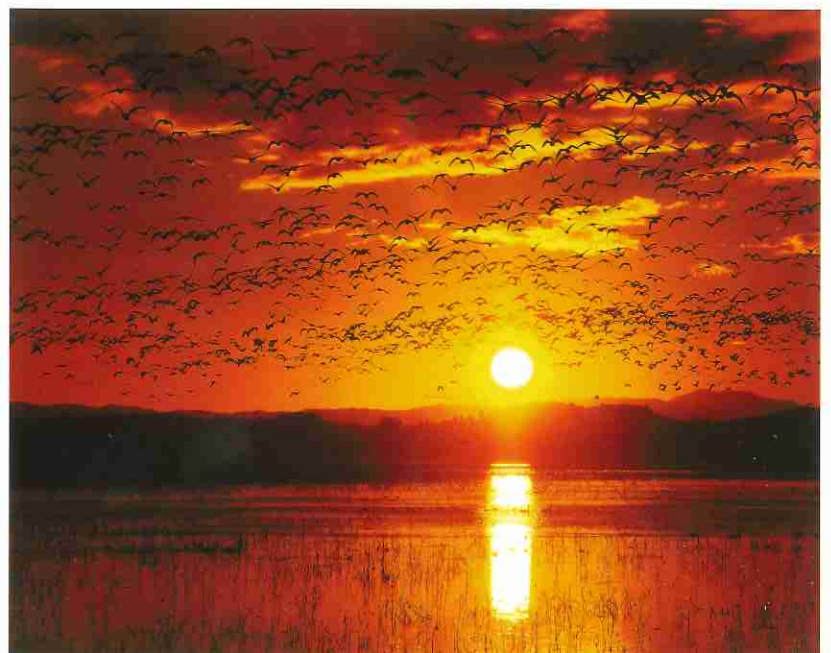


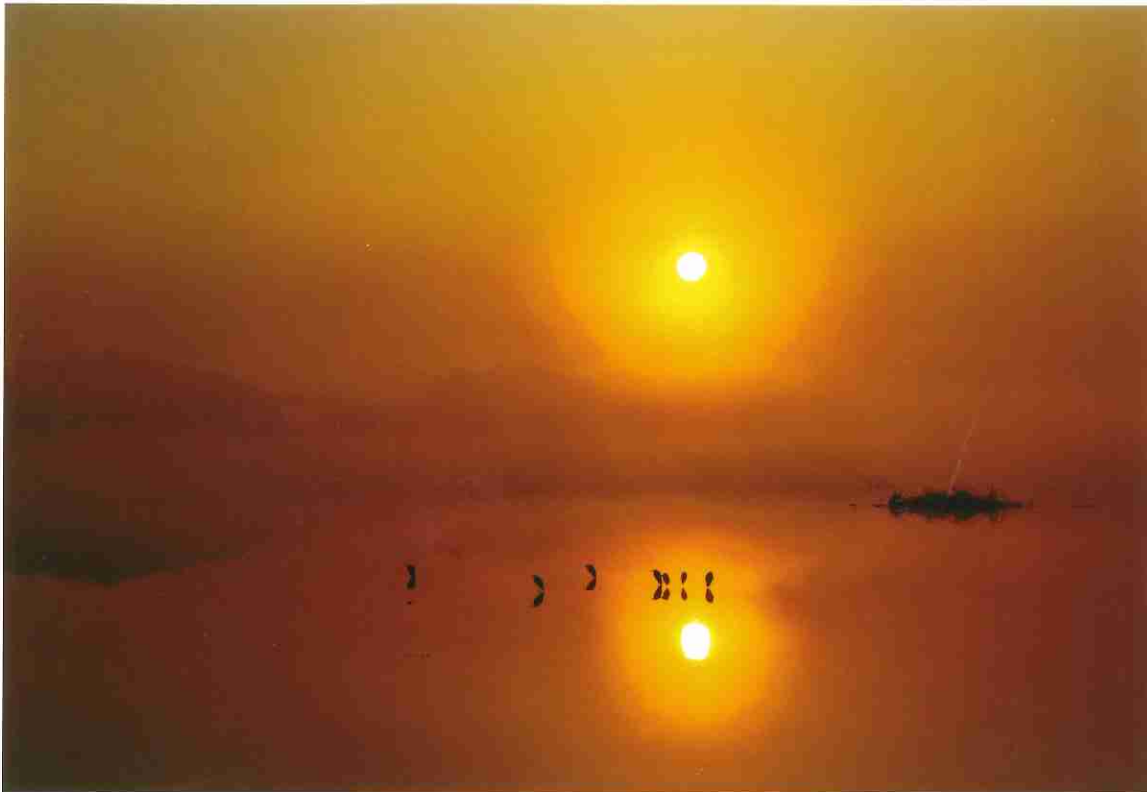
【評】伊豆沼の風物詩とも言える、朝日とともに飛び立つマガンの美しい場面ですね。マガンがカギになって編隊を組み飛んで行く良い形をとらえています。マガンの数が多ければ迫力が出るので、数の多さを求めてしまいがちですが、イメージが似てしまうものが多いです。この作品は、マガンの数はやや静かですが光の美しさとシャッターチャンス goodness で魅力にあふれていて、見ても飽きません。大きな群れが去ったあとでもねらい続けた伊豆沼への愛情を感じます。少し惜しいのは水平が若干傾いていることです。

金賞（栗原市長賞）
「明けの乱舞」

渡邊 興次

【評】これぞ伊豆沼のマガンの飛翔という様なインパクトのある作品です。やや右に寄せた朝日と空一面にバランスよくマガンで埋め尽くしたフレーミングが良いです。描写は全体がシャープで、絞りやシャッター速度、ピント位置の設定が的確で、見る人に印象を強く伝えられています。また、やや濃い露出で赤さが強調され、太陽の輪郭も見せられたことがさらに強い印象になっています。

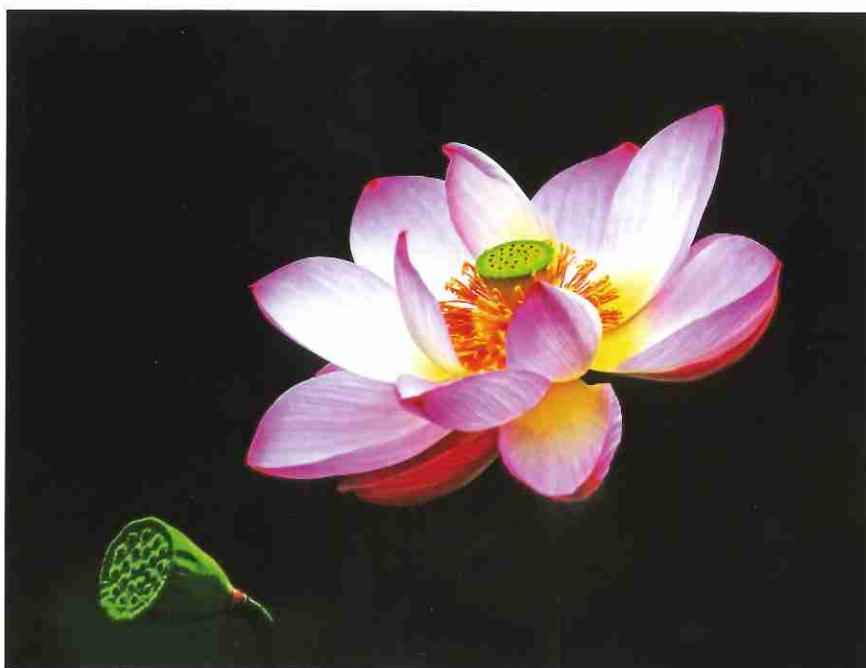




【評】 風がなく水面が鏡状となった伊豆沼の朝の静かさを切り取られています。じっと佇んでいる7羽のサギと太陽をポイントにし、広めの空間という構図の作り方がうまいです。冷え込みにより、モヤが立ちこめた幻想的なイメージが良いです。モヤは濃くなり過ぎ何も見えなくなることもありますが、この作品は程よく邪魔な人工物を隠してくれる絶妙なタイミングをとらえられているのが高評価です。優しくも力強い作品です。

金賞 (登米市長賞) 「夢幻の華」

小野寺 亨



【評】 この作品を見た瞬間、花がぐっと迫ってくる感じがしました。背景を暗く落とすことで、きれいに咲いている大きなハスの花と隣りの花托だけが浮きあがって見える、露出の設定が良いです。また、花の向きを考慮しながら空間の取り方など全体のバランスのとれた良いフレーミングです。よく見なければわからない程度の輪郭にうっすらとソフト効果を出しているのもうまいです。

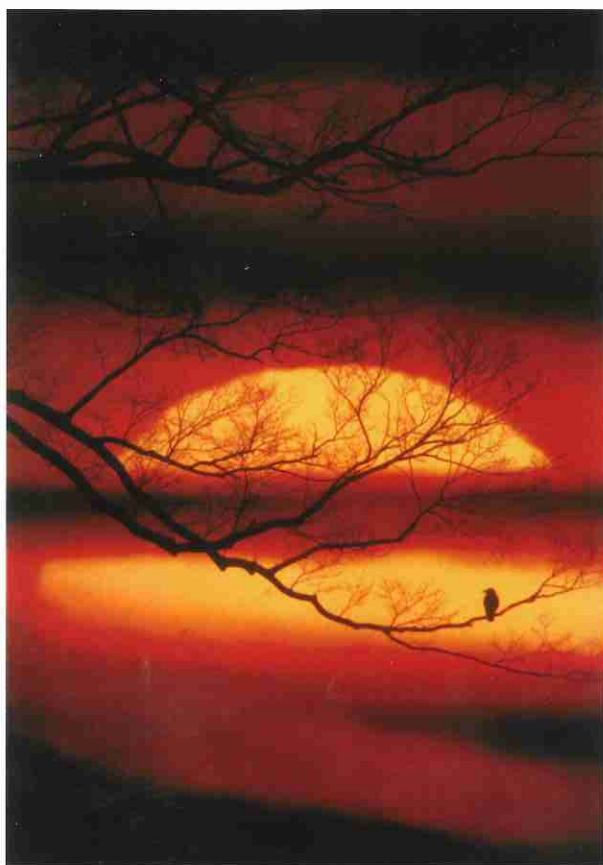
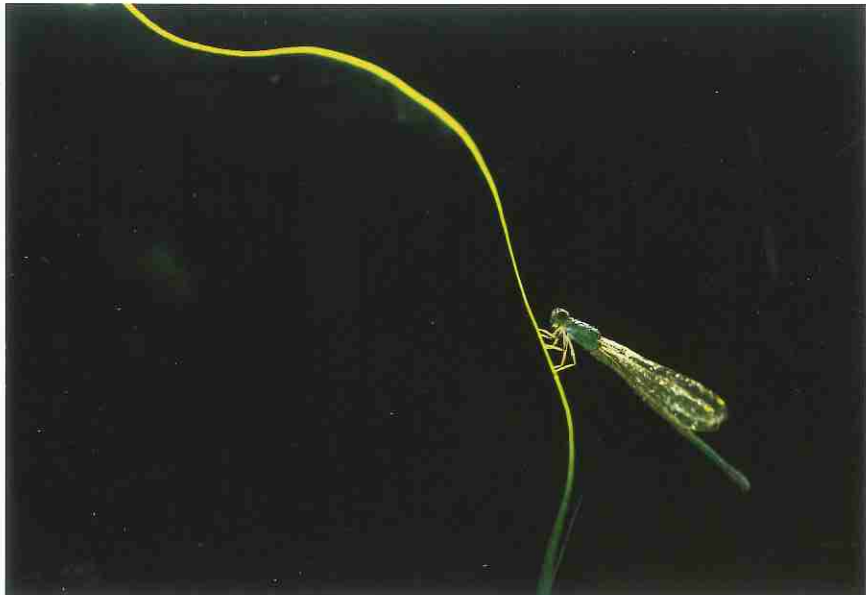
銀賞

(栗原市観光物産協会
会長賞)

「朝 露」

刈部 博

【評】朝日が当たりじっとしているイトトンボを、背景に暗い場所を重ね合わせ、的確な露出により黒バックに浮かび上がらせたのが素晴らしいです。タイトルにもなっているイトトンボに付着した朝露だけを浅い被写界深度でピントを合わせられているのもお見事です。広い空間に入れた長い弦の曲線に動きを感じさせる切り取りも良いです。



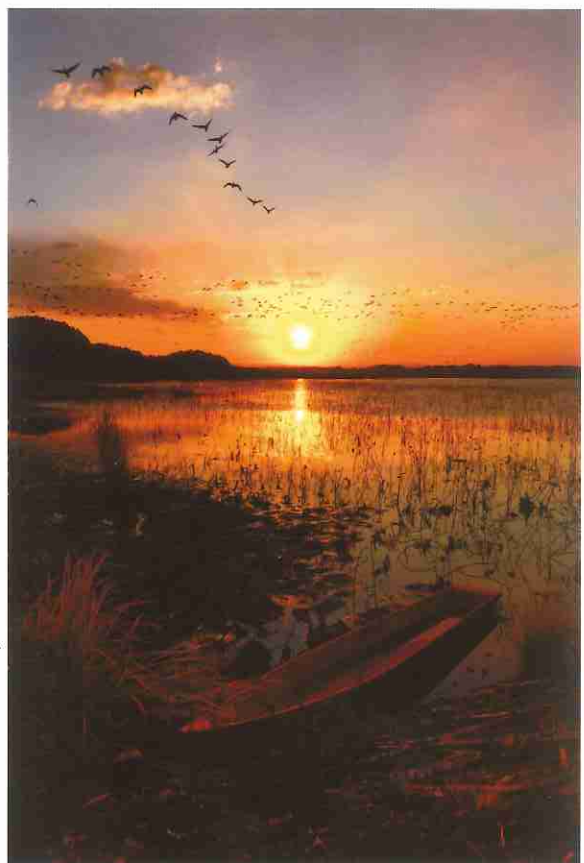
銀賞

(登米市観光物産協会
会長賞)

「朝日に連翔」

加藤 久雄

【評】画面いっぱいに切り取った大きな太陽は若干の画質低下はあるものの、何と云っても素晴らしいインパクトです。真っ赤な太陽に重なる様に、枝にとまった一羽のカラスをシルエットにねらい、横向きになった瞬間で情緒を感じます。縦位置構図にすることで空のグラデーションを強調させる良い切り取りだと思います。



銀賞

(宮城県伊豆沼・内沼
サンクチュアリ友の会
会長賞)

「Brand New Morning」

大森 俊裕

【評】広角レンズで葦舟を前景に配置し、沼の一面に枯れたハスの茎と、遠く朝日までが奥行き感として伝わってきます。また、空には遠くのマガンの群れから1グループが手前に接近しているのも遠近感となり素晴らしく計算された構図だと思います。伊豆沼で繰り広げられる人と自然の美しい景色がとらえられています。

銅賞 (河北新報社賞)
「越冬」

安納 正



【評】 田んぼで吹き付ける雪に耐えるマガンの群の様ですが、見たことの無い不思議な表現に目を奪われました。手前寄りのマガンにピントを合わせ、くっきりととらえている中、降る雪を少しぼらすことで不思議な描写になっています。冬の厳しさを乗り越えるマガンの生態も垣間見える興味深い作品です。

銅賞 (読売新聞東北総局長賞)
「埸にて」

岩崎 孝



【評】 伊豆沼の上空に星空をとらえた美しい作品です。おそらくソフトフィルターを使い、肉眼で見るよりも星の存在感が強調され神秘的にとらえています。街の灯りは星の撮影には邪魔になりますが、きれいなグラデーションにとらえているのも高評価です。誰もが知るオリオン座をポイントしたのも良いねらいです。

銅賞 (朝日新聞仙台総局長賞)
「霧海に舞う」

狩野 博美



【評】 優しい色の中に飛び交うマガンのシルエットがとても美しいです。霧の中で前後によって濃淡がついているのが日本画の様にも見え面白いです。画面左の上の空間が少し広く空いているのが惜しいです。少しカメラを下に振るか、もう少し望遠でねらっていたら更に上をねらえたかも知れません。

銅賞 (毎日新聞仙台支局長賞)
「望月の空に翔る」

佐藤 崇



【評】 満月が昇ってきた瞬間とマガンの群れの飛翔をとらえた決定的な場面です。満月は月に1度、晴天で周囲の明るさが残っているタイミングの月の出はシーズン中に1度あるかないかの希少な場面でしょうね。色温度の高い青さをそのまま活かすことで月の赤味が象徴的に見せられたのが素敵です。



入選 「厳冬の華達」
石原 三雄

【評】 ハスの枯れたカタケが打ち上げられたのか山積みになっているところが冷え込みで凍てついた冷たさや質感が丁寧に描写されています。一見乱雑に並んでいる中から正面を向いた形の良いところをうまくフレーミングされています。

入選 「夜明けの漁場」

庄子 源六



【評】 雪が積もる寒い朝、漁に出かける2艘の船の自然な日常をとらえています。色温度の青みをそのまま活かし、やや暗めの露出で早朝の雰囲気を見せたいというまいねらい方です。地元の方の生活に密接する伊豆沼の素顔が表現されています。

入選 「僕のだよ……？」 鈴木 晁明



【評】 レンコン堀大会での激闘のシーンですね。少しでも多くのレンコンを掘り出す競技でレンコンを取り合う笑顔の少年に純真さが感じられます。地域のイベントを楽しむ光景は、無くしてはならない貴重な記録でもあります。

入選 「満月の雁行」 遠藤 一治



【評】 月に一度しかない満月の日に晴れるかは運次第ですが、快晴でなく、この作品の様におぼろな月も情緒があって良いです。ちょうど月に重なって飛ぶマガンの群れにピントを合わせシャープなシルエットなのがお見事です。

入選 「厳 寒」 佐々木幹男

【評】 水面から立ち上るモヤに朝日が差し込みオレンジ色に染まった美しい場面です。背景にヨシ原の陰になる暗い部分を重ねモヤを強調したねらい方がうまいです。そこに浮かぶハクチョウやガンのシルエットがドラマチックです。



入選 「冬の旅人」 佐藤 浩章



【評】 穂先をついばむアトリでしょうか？それなりの程よい大きさとシャープにとらえられています。超望遠になればシャープにとらえるだけでも難しいことです。また、低い光で全身の質感描写と大きくぼかされた背景のグラデーションもきれいです。

入選 「朝日を浴びて」 高田 毅



【評】 モヤが立ちこめる中に昇る朝日を背景に飛び交うマガンの群れが心象的にとらえられています。特に太陽に重なるところを飛ぶシルエットが格好よいです。また、右下にモヤの切れ間から見える地上の木立を配置した構図も好感です。

入選 「舞 踏」 佐藤 寿好



【評】 黒バックに黄金色に輝く水しぶきに目を奪われました。ハクチョウが追いかけっこをしているのでしょうか。激しい水の動きで、まさに踊っている様に見えます。描写がもっとシャープでしたら確実に上位入賞したことでしょう。

入選 「蓮沼炎上」 日野 俊文



【評】 暖色の朝日が水面に反射して燃えている様に見えます。水面から漂うモヤが煙の様に見えまざしく大炎上です。ハスの花が咲き終わった茎のシルエットも面白いです。また、奥に飛ぶ一羽のガンが重要なポイントになっています。